

George Mason University

アメリカ合衆国建国の父の一人であり、バージニア権利憲章を起草したジョージ・メイソンにちなんで名付けられた大学です。17の学部幅広い分野にわたる授業が提供されており、広いキャンパスには40棟を超える学生寮、3つのジム、24時間空いている図書館、スターバックスなどのカフェテリア、フードコート、大学の対抗試合が行われるスタジアムなど非常に整った環境で勉学に専念することができます。右写真のジョージ・メイソン像は、学生による飾り付けで、季節ごとにマフラーを巻いたり浮き輪を付けたりとにぎやかです。



Study

授業は主に、50分×週3回、75分×週2回、160分×週1回の3種類あり、合計で5つの授業を履修することができます。授業の形態、試験方法、課題の量は教授によって全く異なるため、1番初めの授業で貰うシラバスでの確認が必須です。8月の下旬から12月下旬までの秋 semester と1月下旬から5月上旬までの春 semester があり、間に3か月間の夏休み、1か月程度の冬休みを挟みます。授業によってはディスカッションやグループワークが基本となるものも多く、学生の参加が強く求められます。留学生が多いため英語のアクセントに苦労しますが、その分様々な意見と出会えるとても刺激的な環境になっています。



Life

学生寮がとても充実しています。寮によって、1人部屋・2人・4人・6人部屋があり、キッチンの有無、洗濯機の有無、部屋の大きさ・寮費などが変わります。わたしの場合、前期はキッチンなしの2人部屋、後期はキッチン付きの6人部屋（2人×3部屋のスイート）を選びました。キャンパスが広いので寮の立地も重要となってきます。大学の近くには大きめのスーパーがあり食料に困ることはありません。最寄りのメトロまでのバスが大学からでています。学生の活動も盛んで200を超える student organization が登録されており、週末には何かしらのイベントが学内で開催されています。



Activity

Japanese Student Association

(通称 JSA) という比較的新しい団体があり、毎月1、2回の頻度で日本に関連した文化イベントを開催しています(ひな祭りや Pocky day など)。また留学生同士、留学生と GMU の学生の交流を目的とした団体や、毎週交流イベントを開催しているキリスト教系の団体など、さまざまな文化を学ぶ機会が多い大学といえます。学生による大学自治も積極的に行われており、活気にあふれたキャンパスです。



Virginia

バージニア州は世界の中心ともいえるワシントン D.C.までメトロで1時間弱、ニューヨークまでは夜行バスで6~7時間と、アメリカを観光するにもってこいの立地にあります。スミソニアン博物館をはじめとする DC の博物館・美術館群は休みを利用して何度でも訪れたい場所です。4月には有名な桜まつりがあり、(下手したら日本よりも) 綺麗な桜を楽しむことができます。バージニア州、特に GMU がある Fairfax 地区は多くの学生や DC で働く職員の住宅地となっており、治安が良く住みやすい地域です。西岸と比べて日系移民が非常に少ないですが、他地域からの移民が多いため、留学生にとってさまざまな英語を学ぶには最高の環境です。大学から最寄りの空港までは車で20分の距離なので休みを利用して旅行に出るのもおすすめです。

Japanese Students

GMU には創価大学、上智大学、秋田国際教養大学からそれぞれ1人ずつ交換留学生が来ています。創大と GMU の歴史はとても新しく、わたして3人目です。2年前から創大の国際教養学部との提携が開始し、交換留学生と同じタイミングで国際教養学部の1年生が15人ほど GMU で学んでいます。日本人留学生が少ないため、初対面の人との会話では話題に困りません。

